

# 忙 申 閑

コロナ禍の状況でも変わらず季節は巡っていく。春の木漏れ日や、暖かさを忘れてしまう程の身を切るような寒さの日々が続き、曆上では間もなく立春を迎えようとしている。立春といえば、俳句などで「雪や氷が溶ける」「春の芽吹き」「生き物が動き出す」というイメージで使われていたり、1年で最も寒い時期から徐々に暖かくなっていく季節の移り変わりを感じられる時期だが、毎年いち早く花をつけ、春の訪れを感じさせてくれるのが梅である。

2月に入ると、各地で梅の開花が始まり、「梅まつり」などの行事も行われるようになる。咲き誇る梅の美しさを堪能することが春の訪れを感じる恒例行事の楽しみのひとつだ。盛大に咲く桜と比べると花も小さく、目

立たないが、ほんのりと甘く優しい梅の花の香りが奥ゆかしさと五感で春のはじまりを感じさせてくれる。

梅の花というと、新元号の「令和」にまつわる話が記憶に新しい。「令和」は日本最古の歌集「万葉集」を典拠とする元号で、奈良時代の初め、当時は珍しかった「梅花の宴」で歌われたものから引用された。『厳しい寒さの後に、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが、未来への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる国であってほしい』という願いが込められており、英語ではBeautiful harmonyとも表現され、国自体の平和を象徴する意味合いもあるそうだ。

# 薄紅色の春の日

広報委員 安井 潔

今でこそ花見といえば桜が定番だが、この時代は梅だったようだ。万葉集や古今和歌集などに梅の花の歌が多く詠まれていることから、時代を越えて人々に親しまれてきたことが分かる。梅の花ことばについて調べていると、昨今の状況にあてはまるようで、また、希望にあふれた言葉がとても胸に響いたのでご紹介しよう。

## 梅の花ことば

**高潔（こうけつ）** …人として正しくあり、道徳的で精神性が高く、世界の平和を推し進める人。予想もしなかった災害や疫病でどんな苦しい状況でも日本人は高潔な心を持っていると世界中から称賛を受けている。凜とした姿で咲く梅の花にぴったりだと感じた。

**忍耐、不屈の精神**…冬の間じっと耐え忍び、まだ寒さの残る頃に咲く梅の花。咲いた後も冷風に耐えながら暖かい春をじっと待っている様子はとても健気で芯の強さを感じる。どんなに寒い冬であっても、その先には春が来る。それはまるで、辛くてもその先には必ず幸せがあると、教えてくれているようだ。

そのほかにも、上品、忠実、優雅、高貴、気品などがある。

日本の美德がたくさん詰まった花ことばとともに、梅の花を五感で感じて春の訪れを心待ちにしたいと思う。